

真夏のダム湖に蘇る幻想の世界
～ 日吉ダム湖、LEDのあかりで在りし日に思いを馳せて～

天若湖アートプロジェクト実行委員会主催による、「天若湖アートプロジェクト2011」のメインプログラム「あかりがつなぐ記憶」が、日吉ダム（天若湖）において開催されます。本プログラムは、日吉ダムの建設により湖底に沈んだ、かつての宮村や世木林などの集落（約120戸）のあかりを夏の夜の湖面に再現するものです。日吉ダム（天若湖）に浮かび上がる幻想的なあかりを体験してください。

1. 日 時 8月6日（土）、8月7日（日） 日没から夜明けまで

2. 場 所 日吉ダム（天若湖）
京都府南丹市日吉町天若

平成23年8月1日



独立行政法人 水資源機構

発表記者クラブ

京都府政記者室
南丹市政記者クラブ

問い合わせ先

独立行政法人水資源機構 日吉ダム管理所
所長代理 小宮 礼行（こみや ひろゆき）
電 話：0771-72-0171（代表）

【別紙】

1. 行事名 天若湖アートプロジェクト2011～「あかりがつなぐ記憶」～
2. 主催 天若湖アートプロジェクト実行委員会（構成：市民団体である「桂川流域ネットワーク」とNPO法人「アートプランまぜまぜ」が中心となり、京都造形芸術大、京都市立芸術大、摂南大、大阪商業大の学生及び教員、地元住民、水資源機構日吉ダム管理所など）
3. 目的 本プログラムは、風景とアートの力によって、水没地域、地元そして流域の人々がともに触れ合うことにより、水没地域の方々の思いと、このダムの意味について、流域市民の相互理解と共感の場を創り出すことを目的としています。
4. 内容等 「あかりがつなぐ記憶」は、2005年から毎年8月に実施しており、今年で7回目を迎えます。
始まりは、2004年に「桂川流域ネットワーク」が実施した「湖面利用アイデアコンテスト」において提案された、ひとりの学生のアイデアをNPO法人「アートプランまぜまぜ」が肉付けし、両者が天若湖アートプロジェクト実行委員会を結成して、開催に至ったものです。
当初は、湖底に眠る二つの集落を夜の湖面にあかりで再現し、年々、再現する集落を増やして、2009年からは五つの集落（宮村、世木林、沢田、楽河、上世木）全ての約120戸を一つひとつあかり（LED）で再現しています。
日吉ダム管理所では、小型GPSを活用し、湖底に沈んだかつての家屋位置の特定、あかりを設置するための目印の設置及び外灯がなく真っ暗な観覧会場へ続く進入路（管理用道路）の足下あかり（京都造形芸術大の学生が針金で形を作り、紙を貼って作った「鮎ねぶた」）を置くための台座の設置を担当します。
5. その他 当日は、ガイド付き無料観覧バス（所要時間：約2時間）が、ダム直下流の温泉施設「スプリングスひよし」から運行されます。
【運行時間】第1便：19:00発 → 20:55着
第2便：19:30発 → 21:25着
コース：スプリングスひよし→世木林（バスを降り、徒歩で世木林観覧会場及び日吉夢のかけ橋へ行き観覧）→天若峡大橋→右岸側町道→スプリングスひよし



「天若湖に浮かぶ集落のあかり」



「家屋位置の特定・目印の設置作業」

詳しくは、「日吉ダム管理所」又は「天若湖アートプロジェクト実行委員会」のホームページをご覧ください。

（日吉ダム管理所）<http://www.water.go.jp/kansai/hiyoshi/>

（天若湖アートプロジェクト）<http://amawakaap.exblog.jp/>

【参考】昨年为天若湖アートプロジェクト2010「あかりがつなく記憶」

